

# With

ウィズセンター情報誌

春  
2006  
vol.36

- ウィズエンパワーメント講座 岡澤憲芙さん
- 参画社会へ Let's Go! 依田聡子さん、依田伸一郎さん
- メディアからの発信 田中 泰さん



「コーイチせんせい! がんばったヨ」にしむらこういち 西村幸一さん (岡山市)

平成16年度情報誌表紙フォトコンテスト優秀賞受賞作品

## 講演「国際化・少子高齢化と男女共同参画」

講師 岡澤 のりお 憲美さん (早稲田大学社会科学総合学術院教授)



## プロフィール

1944年上海生まれ。昭和42年早稲田大学政経学部卒業、早稲田大学社会科学部・助教授、ストックホルム大学客員研究員などを経て教授。その後、社会科学部・学部長、早稲田大学図書館長、早稲田大学理事などを歴任。21世紀の地球と日本を分析し、日本の政策課題を国際化、少子・高齢化、高度情報化、成熟化の視点から、具体的資料を基礎に論ずる。選考は比較政治学、政党政治論、リーダーシップ論  
 主な著書:「おんなたちのスウェーデン」NHK出版、「政党」東京大学出版会、「スウェーデンの挑戦」岩波書店、「ストックホルム・ストーリー」早稲田大学出版部、「連合政治とは何か」NHK出版、「生活大国へ」丸善書店、「現代政治学」法学書院、「世界の福祉」早稲田大学出版部 他多数

## 異なる価値観と共存して楽しいワンダーランド

今、この地球には約208の国や地方があり、約65億の人間が住んでいる。年金制度や女性の社会参画なども、それぞれの国の歴史や文化などを背景に独特の制度を採用している。どうすれば違う価値観で作られたシステムと仲良くなれるのか、どうしたら違う点を縮小でき、平和共存できるのか。地球社会に飛び出して二つのことを知って欲しい。この地球社会は異なった価値観が共存しているから、結構楽しいワンダーランドなんだと。そして、違った価値観を持つ人たちやシステムと平和共存していかなければならないほど、地球規模相互依存の時代に生きています。

## 変化と変動の時代

国際化、少子化という問題を捉える時の結論。

- ① 常識と非常識は時とともに簡単に反転する。昨日の常識今日の非常識、今日の非常識明日の常識。変化と変動が激しいのに、自分の頭の中にある若い時に仕込んだ情報知識で、問題が解決できると思ってしまう。
- ② 常識と非常識は空間とともに簡単に反転する。自分たちが慣れ親しんだシステムで定着した常識が世界中に通用すると思ってしまう。
- ③ 意志決定過程はもっと価値複合的でいい。多様な価値観を吸収するようになった方がいい。例えば、国や自治体や企業が取り組んでる問題に、次世代育成政策がある。出産の100%を女性が担当し、介護の85.1%を女性が担当するのに、国も県も市町村も、企業も組合も意志決定過程に

ほとんど女性がない。はたしてそんな閉塞的な状況の中で、老後の介護の問題や日本の出生率が好転するだろうか。

## なぜ今男女共同参画が必要か

なぜ今男女共同参画が必要かという、意志決定過程を価値複合的にしなければ、日本の21世紀が直面する生活課題のほとんどは解決できないだろうと思うからだ。特に重要な政策課題は、国際化・グローバル化、少子・高齢化、高度情報化、それに市民生活成熟化の要求、である。

こうした政策課題は、総人口でも有権者人口でも過半数を占める女性の貢献・参加を抜きにしては解決困難であろう。



## 少子高齢化への対策

労働人口を安定的に調達し、納税人口を増やすための方法は5つ。

1. 家族生活を重視して次世代育成政策に力を入れる。
2. 労働市場を開放して外国人労働力を受け入れる。
3. 男は仕事、女は家庭という伝統的古典的な制約をなくして、職場、家庭、地域社会でも、男と女が役割と責任を分かち合うような男女共同参画型社会をつくる。
4. 定年年齢と年金受給開始年齢を67か70に上げる。
5. 日本の経済システムそのものをダウンサイジングする。

こうした政策選択肢を、時代と状況に柔軟に対応して、複合的に・選択的に具体化していく必要がある。「あれかこれか」ではなく、「あれもこれも」という柔軟な発想と、説得的な重心移動が求められよう。知恵と工夫が求められる時代の到来である。



## 講演 ラッキーウーマン ～マイナスこそプラスの種～

講師 竹中 ナミさん (プロップ・ステーション理事長)

## プロフィール

昭和23年兵庫県神戸市生まれ。  
 重症心身障害児の長女を授かったことがきっかけで、療育の傍ら、障害児医療・福祉・教育を独学。また、手話通訳、身体障害者施設での介護などのボランティアに携わる。  
 1992年 チャレンジド(障害者)の自立と就労を支援する任意団体「プロップ・ステーション」を設立し、パソコンの技術指導、在宅ワークのコーディネートなどを行う。  
 1998年 社会福祉法人格を取得。  
 主な著書:「プロップ・ステーションの挑戦」(筑摩書房)、「ラッキーウーマン」(飛鳥新社)他



## 仕事をしたいという願い

コンピュータを使って仕事をしたい。お金を稼いで納税者になりたい。という願いを持った障害者を支援するグループが「プロップ・ステーション」です。15年前につくった頃には一般家庭にはパソコンはなかった。コンピュータとコンピュータを繋いでパソコン通信をしていたのはほんのわずかの人がいた。

## 青年実業家との出会い

「プロップ・ステーション」を設立したきっかけは、指の先がわずかに動いただけという重い障害を負った青年との出会い。彼は、高校の時ラグビーの試合中に首の骨を折るだけをした。リハビリをしてもこれ以上良くならないと医者に言われたが、自分には考える力が残されているのだから、大学へ行って勉強して自立しようと思った。親に、それなら家業を継いで働くようにと言われ、マンション経営をしようと思った。しかし、ほとんど身体の自由がきかないので、大学から受験は難しいと断られたが、友人達の支援で、ワープロを持ち込んでの受験が実現し合格した。入学後も彼らのサポートで、経済、経営、コンピュータについて勉強した。コンピュータについては納得ができるまで勉強したいと大学院へ行った。そしてマンション経営に関しては、データベースから自分で作って実業家として頑張っている。親や友人達、周りを取り巻く人たちが、止めるのではなくやってみてちゃんと背中を押してくれた。不幸な障害者としてではなく、コンピュータという最高の科学技術を使った青年実業家として、しかし身体介護を受けている人として私の前に現れた。

## 可能性に着目して

障害があるということで、親切にとか手助けしようとか思うのは悪意はないが、着目しているのはマイナス面ばかりで、可能性にふたをしている。私は彼に「その人の眠っている可能性、やりたいという意志に着目して、それを人の力と科学技術で引き出して、君のように目をきらきらさせて生きていける人を育てる、そんな活動がしたい」と言った。彼はリハビリをしながら、多くの障害を負ったり、難病にかかって身体が不自由になった人たちを見てきた。その人達は元の仕事に戻れていなかったり、新しい仕事にはついていない。それを見ていて悔しい思いをしていたので、僕もやると言っ

れた。そうして1991年、4人の仲間と就労支援組織「プロップ・ステーション」を設立。名前の「Prop」は、彼がラグビーをしていた時のポジション(守りの要)で、支えあうという意味もあり、組織の目的とぴったりだったので、この名前をつけた。

## コンピュータセミナー開催

表現するための道具としてコンピュータを使うため、コンピュータのセミナーを開こうと思った。「この道具は、人類が火を使うようになったぐらい画期的なことだ」とチャレンジド(障害のある人)たちは言った。でも、コンピュータもソフトも、教える講師料もとても高かった。身体が不自由でも、働きたいという意志を持ったすごいやつらが集まっているのだから、「かわいそうな彼らのために提供してください」と絶対に言うまいと心に決めて、「先行投資と思って提供してください」と交渉に行った。コンピュータ業界は社長は若く、どうやって広めていこうかと試行錯誤している状況だったので好意的に協力してくれた。官公庁の担当者などとも交渉を重ね、ついにコンピュータセミナーを開催することができた。

## チャレンジドも納税者に

今「プロップ・ステーション」では、仕事をするためのパソコン技術の指導と仕事のコーディネートを行い、その人の出来ることを世の中に引き出している。人の力と最高の科学技術(コンピュータ)を使うことで、「チャレンジドも納税者に」と、企業や官公庁から仕事を受注して、「仕事がしたい!」というチャレンジドの夢を実現している。障害があるということで、その人の可能性にふたをし、年金や補助などで手厚く保護する日本の福祉はもったいないことをしていると思う。その人のできることで仕事をして納税者になってもらうこともできる。弱者を弱者でなくしていくプロセスを福祉と呼ぶ、という考え方に変わってほしい。そして本当に必要な弱者をみんなで支えていって欲しい。

私の仕事は、共感して応援してくれる仲間を増やすこと。そのために、国会や霞ヶ関、地方自治体、企業、NPOなど、いろいろな分野の、いろいろな人と会ったり、日本中を講演活動で飛び回る毎日を送っている。

「つなぎのメリケン粉」それが、ナミねえの役割なのだ。

# 参画社会へ Let's Go!

## 二人で優勝をめざして ～国体カヌー競技で、夫婦同時優勝～

昨年、43年ぶりに地元で開催された「晴れの国おかやま国体」では、多くの岡山県選手が活躍しました。夏季大会ではカヌー競技ワイルドウォーターカヤックシングル(1500m)で、みごと夫婦同時優勝に輝いた、依田聡子さんと伸一郎さんに、お話を伺いました。

### 始まりは旭川の清流から



依田聡子さん

小学校の時からカヌーに親しみ、地元の建部町の恵まれた環境もあって、競技カヌーを始めるようになった聡子さん。平成16年の埼玉国体では3位入賞、昨年の岡山国体では念願の優勝を果たしました。

「カヌー競技は、特に腕力が必要だと思われがちですが、川の流れや勢いを見極めてコースを判断する技術によってもタイムが左右されるので、誰でもが充分楽しめるスポーツです。夫婦で同じ競技をしていることもあり、家庭の中でもカヌーの話題で盛り上がる事もしばしば。お互い良い状態になるようにコミュニケーションを保つことは大切ですね。私にとってカヌーは、ほとんど生活の一部なので、今後もぜひ続けていきたいです」

### パートナーでもありライバルでもあり

大学時代に勧められて競技カヌーを始めた伸一郎さんは、現在は選手として自身の練習に励むかわら、後輩の指導も熱心にされています。一昨年の埼玉国体では、聡子さんの方が上位に入り、悔しい思いもしましたが、その悔しさをバネにして、岡山国体では見事に優勝されました。



依田伸一郎さん

「地元での国体という大きなプレッシャーもありましたが、優勝を目指して練習にはげむ中で、職場や地域の人々に応援をいただき、実力を発揮できる強い精神力も得ることができました。地元の高校生たちと共に練習する中で、お互いに刺激し合い、レベルアップさせていきたいです」



お二人とも共に仕事も持ち、カヌー選手としてトレーニングを欠かせない生活を送っています。

「家事はどうされていますか?」と質問すると「洗濯は僕が担当しています」。サラリとした言葉から、家事分担が自然にできている様子がうかがえました。共働きの両親が、家庭の中で協力する姿を見て育った事もあって、自然と家事に参加できたそうです。

夫婦であり、また同じ競技者でもあるお二人は、あくまでもライバルとして対等な立場で切磋琢磨しています。川の中の競技なので、水質や環境の大切さにも気づかされるそうです。残念ながら県内のカヌー競技者は少ないとのこと。

「カヌーは、澄んだ水や風の爽快感といった自然を肌で感じる事ができる開放感あふれる競技。その魅力を多くの人に感じてもらいたい。性別・年齢にかかわらず生涯スポーツとして、カヌーを広めていきたい」と力を込められました。

■カヌー体験についてのお問い合わせ先は  
建部町B & G海洋センターへ

☎0867-22-1661

(取材：情報コーナー 赤田)

ワイルドウォーター・カヤックシングルとは……☒

流れの激しい川を一気に漕ぎ下る競技で、順位は所要タイムで決定される。500mと1500mの2種目で、ノンストップトレーニング(練習)に続き1回で順位を決める。☒

3月11日  
開催区

女性のチャレンジ支援講座 | チャレンジトーク 第1部

## なりたい自分へ一歩前進

～夢を実現！ 専業主婦が株式投資家になったわけ～

講師 やまもと ゆか 山本有花さん (株式投資家)

15歳の時にジャズダンサーになる夢を持っていたが、交通事故にあったことであきらめた。そして、大学に通いながら研究者になる次の夢に向かって頑張っていたが、理不尽なことでその夢もあきらめざるを得なくなった。

その時も「挫折ではなく、作戦を変更したんだ」と気持ちを切り替え、夢を持ち続けようと決心した。そして次の夢を見つけるため、化学の教師をしたり、心理カウンセラーの勉強も始めた。そういう中で、「本を出したい」という新しい夢ができ、その夢に向けた人生のシナリオ「努力の方法?」「夢実現までのハードル」「第一目標の計画」「夢実現のための資金」を考えた。「本を出す」ことには、直接的な資金は要らないが、自分のこづかいくらいは稼ぎたいと“株式投資”を始めた。今までの様々な挫折経験から、じっくり考えて工夫をして、株をする

ようになった。そして“本”を書くチャンスもできたが、出しても売れない時代が続いた。しかし、シナリオを作ってじっくり考えていたので、自分が書き続けられればいいことだと挫折することはなかった。夢を実現するためには、まず、目標をイメージし、目標設定をして、必ず実行すること。そして反省する。そこで、もし間違った方向に進んでいたら修正して実行する。夢が実現しても、それで完結するのではなく、次の夢に向かって進んでいくこと。

夢実現のために大切なことは、「心から楽しめること」「身体に無理がないこと」。続けられることではない。

最後に、「夢を持っていない人生はつまらない。周りには夢をかなえるチャンスはいっぱいある。見ていないだけで、手を伸ばせばつかめて、みんな、なりたい自分になれる」という励ましの言葉で締めくくられた。

3月18日  
開催区

女性のチャレンジ支援講座 | チャレンジトーク 第2部

## フォローアップセミナー

講師 ふるがき 古垣みゆきさん (関西日本ジャテックス)

起業家応援セミナー受講後、既に起業して、チョコレートケーキを販売している人や、こだわりの総菜を車で移動販売している人、起業に向けて着々と準備が進んでいる人、家庭



の状況が変化して計画変更になり、次に必要なスキルアップをしている人など、一人ずつ近況を

発表した。

講師からは、販売を拡げていくためのマーケティングの重要性、利益を計算して自分の給料を確保する経営感覚の大切さ、継続していくために必要な人材活用など、今後発展していくための大切なポイントや、コラボレーションしてお互いに仕事を作っていくこともできるとコメントされた。

そして、販売拡張方法や取り扱い商品など、今悩んだり、迷っていることについて、講師からアドバイスされたり、出席者たちもお互いに熱心に意見交換し合った。

メディアからの発信 ● vol.8 (最終回)

## 男性が子育てしやすい街に

たなか やすし  
山陽新聞倉敷支社編集部 田中 泰さん


昨夏に第1子が生まれ、昨年10月から1月末まで育児休暇を取得した。仕事を離れ、子どもと向き合っていた4カ月。初めてのこぼかりで、発見と感動の連続だった。

それと同時に、育児の世界はまだ女性中心だな、と感じたのも事実。子連れ男性の視点から見た街は、予想していた以上に不便だ。

たとえば育児中の楽しみだった散歩。当初は、おむつ換えがひっきりなしだったが、街中に男性が使えるおむつ換え台はごくわずか。男女ともない施設もあるし、「おむつを換えるのは女性」とばかりに、女性用トイレにだけ交換台がある店も珍しくない。授乳までできる場所になるともっと減る。

育児教室に参加しても男性は1人だけだったし、そもそも平日の昼間に1人でベビーカーを押す男性はごくごくわずか。慣れるまで、外出中はいつも居心地の悪さを感じていた。

でも考えてみれば、男性がそう感じる環境ということは、どれだけ女性にだけ育児を任しているか、ということの裏返しでもあるだろう。

男女共同参画という、女性の問題にスポットがあたりがちだが、もっと男性が育児しやすい社会にならないと、結局、女性の負担は軽くはならないし、少子化対策にもつながらないのではないかな。

「もっと育児に関わりたい」という男性は多いはず。そんな男性が、育てやすい環境が伴わないため育児参加の割合が減っているとしたら、男女双方にとって不幸なことだ。

こうした環境を改善する一番の近道は、おそらく男性が声を挙げること。せっかくメディアの側にいるのだから、男女にとって育てやすい街になるよう、“声”が届けていけたらいいな、と思っている。

●平成17年度 男女共同参画地域フォーラム☒

ウィズセンターでは、市町村との共催で男女共同参画社会を実現するために、県内各地で地域フォーラムを開催しました。☒それぞれの地域の大勢の方が参加してくださいました。☒

開催地☒	開催日☒	講義名☒	講師☒
赤磐市☒	8月20日☒	講演「男女共同参画に関する行政の取組について」☒ 映画上映『ペアテの贈りもの』☒	中西 美子 (ウィズセンター所長) ☒
津山市☒	8月27日☒	講演「これからのまちづくりと男女共同参画」☒	吉永みち子 (ノンフィクションライター) ☒
真庭市☒	0月1日☒	講演「男女共同参画ホップ・ステップ」☒ パネルディスカッション☒ 「男女共同参画を考える」☒	加野 芳正 (香川大学教育学部長) ☒ ■コーディネーター☒ 加野 芳正 (香川大学教育学部長) ☒ ■パネリスト☒ 佐山 秀一 (オーティス㈱社長) ☒ 奥村 恵美 (落合おやこクラブ協議会会長) ☒ 筒井 秀子 (JAまにわ女性部部长) ☒ 井手紘一郎 (真庭市長) ☒
総社市☒	1月22日☒	男女共同参画絵てがみ展優秀作品表彰式☒ 講演「新しい歌をうたおう ～新しい家族のありかた～」☒	鈴木 光司 (作家) ☒
吉備中央町☒	11月26日☒	合唱☒ 寸劇☒ 講演「美しく生きる ～みずの心にふれて～」☒	コーラスグループ「ミックスジャム」☒ 吉備中央町婦人協議会有志☒ 山崎 凱千 (山口短期大学特認助教授) ☒
新見市☒	1月15日☒	講演「男女共同参画社会の実現に向けて」☒ 落語「笑顔いつも心に!」☒	内野 淳子 (岡山県副知事) ☒ 桂 文喬 (噺家) ☒
笠岡市☒	2月25日☒	演奏☒ 講演「家族って何だろう ～あなたのライフスタイルは?～」☒ シンポジウム☒ 「広がれ未来 男女の知恵で共同参画 ～自分らしくあなたらしく～」☒	まや保育園園児☒ 深江 誠子 (平安女子学院大学教授) ☒ ■コーディネーター☒ 中西 美子 (ウィズセンター所長) ☒ ■パネリスト☒ エイミー・チャベツ (ジャパンタイムズコラムニスト) ☒ 杉本 喜信 (中国新聞笠岡支局長) ☒ 松尾智恵子 (いかさ女性セミナー元運営委員長) ☒
井原市☒	3月11日☒	講演「井原市の現状と『ペアテの贈りもの』」☒ 映画上映『ペアテの贈りもの』☒	濱田 栄夫 (山陽学園大学教授) ☒
瀬戸内市☒	3月12日☒	講演「男女共同参画で心豊かな社会に!」☒	桑原 征平 (関西テレビアナウンサー) ☒

ウィズライブラリー

～ 高齢社会を健やかに生きていくために～

図書



『団塊世代を総括する』☒

- ・三浦 展☒
- ・牧野出版 (2005年) ☒

高度経済成長期のまっただ中で、青春時代を過ごし、ひたすら豊かさを求めてきた世代の背景を豊富なデータで分析しながら、団塊世代の特徴を明らかにし、定年後を考える。☒

図書



『帰宅の時代』☒

- ・林 望☒
- ・新潮社 (2005年) ☒

団塊世代の著者が自ら歩んできた「自分らしさ」を示しながら、これからの時代を生きていく同世代に「自分らしく暮らすための10か条」「自分らしさを見つけるための6か条」を伝授する。☒

図書



『その手は命づな』☒

- ・横川和夫☒
- ・太郎次郎社エディタス (2004年) ☒

超高齢社会における住民参加の在宅介護システムとは…。一日平均80件のヘルプ活動を展開する「新潟まごころヘルプ」を設立し、ひとりでもやらない介護、ひとりでもいい老後をめざした人たちの挑戦を描いたノンフィクション。☒

DVD



『モナリザ・スマイル』☒

- ・アメリカ (2003年) ☒
- ・119分☒

名門ウェルズリー大学に赴任した新任教師キャサリン。"良き妻"になることに憧れる米国一保守的な生徒たちに「自分の頭で考えることの大切さ」を教える。やがて、伝統を重視し、反発する人々にも変化が…。☒

受講生募集

●ウィズカレッジ

●男女で学ぶ介護講座

内 容：第1部  
講演「アルツハイマーの母を支えて」  
第2部  
在宅介護実技指導「自立への援助のために」  
講 師：野田 明宏さん(フリーライター)  
江里美代子さん(赤十字家庭看護法指導員)  
日 時：4月15日(土) 13:00～16:15  
会 場：ウィズセンター  
募集人数：70名  
申込期限：4月12日(水)

●ストップDV講演会

予定

講 師：尾崎 礼子さん  
(オハイオDVネットワーク技術支援スペシャリスト)  
日 時：6月17日(土) 13:30～  
会 場：ウィズセンター  
募集人数：100名  
詳細については後日お知らせします。

問い合わせ 受講を希望される方は①住所、②氏名、③電話番号、④講義名を、電話、FAX、ハガキ、Eメール(danjo@pref.okayama.lg.jp)で、ウィズセンター  
申し込み先 までお知らせください。ウィズセンターのホームページからもお申し込みいただけます。(http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/)

●平成18年度キャリアアップ講座(女性のチャレンジ支援事業)

●再就職応援コース(再就職にチャレンジするあなたを応援します)

応募資格：子育て等でいったん仕事を中断し、再就職を希望している女性で、全期間出席できる方

内 容：●スキル編 パソコンエクセル検定3級程度の技術を学びます。

●アビリティ編 『働く前に知っておきたいワークライフセミナー』

就職活動の仕方や再就職に際しての予備知識を学びます。

「ビジネスマナー」「応募書類の書き方」「労働契約・社会保険・税金」「面接対策」「求人の情報」等

受講料：無料

受講期間：23日間(1日5時間)

定 員：28名(選考により決定)

講座日程

講座日程	受 講 期 間	申 込 受 付 期 間	会 場
岡山地区	5月 9日(火)～ 6月15日(木)	4月11日(火)～ 4月14日(金)	ウィズセンター、西日本電子計算学院第1ビル
	9月 6日(水)～ 10月13日(金)	8月 8日(火)～ 8月11日(金)	ウィズセンター、TAC岡山校
	11月 1日(水)～ 12月13日(水)	10月 3日(火)～ 10月 6日(金)	ウィズセンター、西日本電子計算学院第1ビル
津山地区	1月24日(水)～ 3月 2日(金)	12月19日(火)～ 12月22日(金)	ウィズセンター、専門学校ビーマックス国際情報館
倉敷地区	5月17日(水)～ 6月23日(金)	4月19日(水)～ 4月22日(土)	津山男女共同参画センターさん・さん
	5月26日(金)～ 7月 5日(水)	4月25日(火)～ 4月28日(金)	倉敷市倉敷労働会館
	9月15日(金)～ 10月25日(水)	8月15日(火)～ 8月18日(金)	倉敷市倉敷労働会館

●夢実現応援コース(あなたのライフステージに応じた様々な再チャレンジを応援します)

応募資格：再就職、起業、転職、社会貢献、NPO等にチャレンジしたい女性で、全期間出席できる方

内 容：●スキル編 エクセル、ワード、パワーポイントの基礎を学びます。

●アビリティ編 『働く前に知っておきたいワークライフセミナー』

自分らしい働き方を探するための知識を学びます。

「働き方いろいろ」「資格の取り方・活かし方」「接客マナー」

「マイキャリアを再確認」「夢にチャレンジ」等

講座日程

講座日程	受 講 期 間	申 込 受 付 期 間	会 場
岡山地区	6月27日(火)～	5月30日(火)～	ウィズセンター、
	8月 3日(木)	6月 2日(金)	西日本電子計算学院第2ビル

※受講料、受講期間、定員等は再就職応援コースと同じです。

※「働く前に知っておきたいワークライフセミナー」の講義の一部を公開講座として開催を予定しています。

※申し込み方法等詳しいことはウィズセンターへおたずねください。

問い合わせ先 就業相談窓口：☎086-235-3309

表紙写真

今年度の表紙の写真は、平成16年度に実施したフォトコンテストの優秀賞4作品を順次掲載しています。今回は、「男性の少ない職場での活躍」をテーマに選ばれた作品です。



ウィズセンターは **土・日曜日**も開館しています。☑  
お気軽に、お越しください。☑

## センター施設の利用について — シリーズ No.3 —



### ◆ 会議や研修に最適 会議室編 ◆

★男女共同参画に関する会議、セミナーなどで使っていただけます。(特定の政治活動または宗教活動及び営業を目的とした場合を除く)

#### ★ご利用手続き

##### ①仮予約☑

ウィズセンター登録団体は利用日の3か月前の月の初日から、その他の団体等については2か月前の月の初日から予約を受け付けます。(電話可)

##### ②利用許可申請書提出及び利用料支払い☑

利用日の1週間前までに直接センターへお越しのうえ、申請書記入と利用料の払い込みをしてください。

#### ★会議室使用料

利用時間	9:30~12:00	13:00~17:00	18:00~20:00	9:30~17:00	13:00~20:00	9:30~20:00
全室 (最大160人)	7,900	12,600	6,300	23,600	22,000	33,000
会議室1 (最大50人)	3,500	5,600	2,800	10,500	9,700	14,600
会議室2 (最大80人)	4,400	7,000	3,500	13,100	12,300	18,400

#### ★設備の使用料 (1台1回につき)

液晶プロジェクター	900
ビデオデッキ	300
書画カメラ	400
オーバーヘッドプロジェクター	300

※ウィズセンター登録団体は半額減免になります。☑

### ウィズセンターの紹介☑

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本当に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

#### 情報提供

- 図書・ビデオの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

#### 就業支援

- 就業相談
- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

#### 各種講座

- 男女共同参画に関する各種講座の開催

#### 交流

- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

#### 相談

- 女性の相談員による様々な悩みの相談
- 弁護士・医師による相談

#### 広報

- 情報誌の発行 (年4回)
- メールマガジンの配信 (毎月)

DV防止法に基づく「配偶者暴力相談支援センター」としてDVに関する相談や情報提供を行っています。

### ● ウィズセンター職員の一とこと ●

センターに勤務して1年が経とうとしています。ここで勤務して感じるのは、こんなに便利な場所にウィズセンターという施設があることを知らない人が、まだまだたくさんいらっしゃるのではないかとことです。もったいないです。この情報誌「With」を手にとって見られている方でセンターに来られたことがない人、是非一度お越し下さい。そして、ご自分なりの施設利用をしてみませんか。(谷口)

DVに関する相談や情報提供を始め、様々な人間関係などの悩みをお聴きしながら、相談者の自信を回復し、生き方を応援する仕事をしています。3年目を迎えました。「聴く」ことの難しさを痛感し、「聴く」ことが非暴力を生む第一歩となることを願う毎日です。職員さんや他の相談員さんの力をお借りしながら、楽しく取り組んでいます。(一般相談員N)

### ウィズセンター利用のご案内☑

開館時間☑ 火～土曜日/9:30～20:00☑  
日・祝日/9:30～17:00☑

休館日☑ 月曜日及び年末年始☑

相談員による 一般相談☑ 火～土曜日(祝日を除く)/9:30～17:00☑  
就業相談☑ (受付は16:30まで)☑

特別相談☑ (予約制)☑  
● 弁護士による法律相談/原則第2・4金曜日☑  
● 医師によるこころの相談/原則第1・3金曜日☑  
● 医師によるからだの相談/原則第1土曜日☑

電話☑ 086-235-3307 (代表)☑  
086-235-3310 (一般・特別相談)☑  
086-235-3309 (就業相談)☑

ホームページ☑ <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



交通案内☑ 岡山駅から徒歩10分☑  
バス/NTT岡山前下車すぐ☑  
天満屋バスターミナルから徒歩2分☑  
市内電車/郵便局前下車すぐ☑

センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ春号 (vol.36) 2006年3月発行☑  
編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター (ウィズセンター)☑  
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45☑  
NTTクレド岡山ビル17F☑  
TEL (086) 235-3307(代) FAX (086) 235-3306☑  
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp